

＊また、介護分野に特化した事業ですが、介護施設等で働きながら資格を取得していただく「介護職員就業促進事業」を利用された方は、例年その約7割が事業期間の6か月を過ぎても雇用を継続しており、こちらも就業者の確保に直接つながりやすい事業と言えます。

＊その他介護の職場体験を行った求職者に対し、介護職員初任者研修等を無料で受講できる講座を開設し、資格取得を可能にする「介護職員資格取得支援」事業においては、例年参加者の約6割が研修受講後、介護分野に就業(就職活動中を含む)しています。

＊人材センターの無料職業紹介の相談窓口では、上記の各種事業の案内を行っています。令和元年度実績では職場体験事業で63名、職場体感見学ツアーで10名が、窓口で紹介されての参加となっていますが、特に福祉業界未経験者にはさらに積極的に案内し、福祉職場を実際に訪れてみることで、資格を取得できたりする機会を提供することで、就職におけるミスマッチを防ぎ、その後の定着につながると考えられます。

### ○地域の団体等との連携

＊人材センターは飯田橋と多摩支所の2拠点で運営している中、求職者のニーズに応える地元の求人を提供し、また相談しやすい体制を整えるためには、ハローワークや各地区社協をはじめとする地域の実情をよく知る団体との連携が重要です。

### ○コロナ禍における状況の変化

＊介護人材確保対策事業においては、令和2年度の実績が元年度と比較して介護職員就業促進事業で1.4倍、資格取得支援事業で1.3倍になるなどコロナ禍における傾向の変化が伺えます。また、2年度のハローワーク出張相談では、相談者の約7割が福祉業界未経験者です。この割合自体は前年度と同様ですが、このような場で相談を受けた福祉業界未経験の求職者に対して、福祉の魅力をアピールし、彼らを人材センターの職業紹介機能につなげていくことが重要です。

＊コロナ禍で増加する他業界からの転職希望者には、福祉業界への理解を事前に深めてもらうことで、参入する上での不安を解消するとともに、ミスマッチを防ぐことが重要であるため、無料職業紹介の相談窓口において求職相談を受けられる際には、事前の見学・体験を積極的に促すとともに、それらに参加後のマッチングに向けたフォローを確実に行っていくことが必要です。

### 今後の対応策(方向性2・3)

＊福祉の仕事に興味を持たれた方に、単なるマッチングを行うだけでなく、仕事の具体的なイメージが湧くように見学・体験の機会を設けたり、実際に働いている職員と話す機会を設けたりすることは、求職者の不安を払拭するとともに、ミスマッチを防いで就職先への定着につなげることのできる、公的機関だからこそ可能な重要な取組です。この人材センターの強みをさらに生かせるよう、無料職業紹介の相談窓口と、人材センターで実施している各種事業との相互連携を一層深め、窓口相談から各種事業を御案内し、事業に参加された方を職業紹介のマッチングへつないでいくという支援の流れを強化していくことが必要です。

＊令和2年度の事業実施においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止したり、定員を縮小したりした事業も多かった中、体感見学ツアーなどは参加者を募集するとすぐに定員が埋まってしまいう状況にあったため、引き続きコロナ禍を踏まえた対応が余儀なくされる状況を想定しながら、より多くの求職者のニーズへの対応策を講じていくことが求められます。

＊地域に焦点を当てた活動を展開していくため、ハローワークや区市町村社協との連携強化を図り、その他地域をよく知る団体との関係を構築しながら、ハローワーク出張相談や地域密着相談面接会などの取組みと人材センターの職業紹介機能との連携を高めていくことが必要です。

▶方向性4（情報発信） 東京都福祉人材センターの広報を強化するとともに、求職者により伝わるよう、情報発信方法の見直しを図っていく。

【現状分析】

＊インターネット上の広報・発信機能として、人材センター自体については東社協のホームページ・Twitter・Facebook等を活用し、各種事業の案内、参加募集などを行っています。また、人材センターの知名度向上のためにWEB広告の配信も行っています。



「東京都社会福祉協議会」ホームページ  
<https://www.tcsw.tvac.or.jp/jinzai/index.html>  
 (人材センター部分)

東京都福祉人材センター  
 キャラクター  
 「フクシロウ」

**フクシロウ**  
 福祉に興味を持つ  
 フクシロウ(♂)  
 じっくり考えると  
 き、首を90度にかしげるクセがある。福祉に関する知恵や技術を身につけて、世の中に幸せをつくるのが夢。

【Twitter】



【Facebook】



\*人材センターにおける無料職業紹介事業の実施に当たっては、中央福祉人材センターが運用する求人情報サイト「福祉のお仕事」にて求人情報を公開し、「求職者マイページ」登録者にはメールマガジンによる情報発信も行っていきます。今後、求職者向けに求人事業所の情報発信を強化していくことが考えられますが、同システムは、全国共通のシステムであるため、東京都独自に改修することができません。現在のシステムでは、事業所登録のページや求人票で事業所の特徴を十分に発信することができていないことが課題です。中央福祉人材センターでは、今後の改修に当たっては、登録の簡素化や各求人事業所の紹介情報の拡充をすすめるとしています。



「福祉のお仕事」(トップページ)  
<https://www.fukushi-work.jp/>

**お仕事 検索・応募**  
 ⇒求人票の検索が可能

**施設事業所 検索**  
 ⇒現在の求人の有無にかかわらず、人材センターを利用している全ての登録事業所について検索可能。求人票には掲載されない、事業所の詳しい情報を確認できます。



施設事業所検索画面

\*その他、福祉の仕事や事業所に関する情報発信としては、平成30年1月に開設し都独自に運用するWEBサイト「ふくむすび」があります。「ふくむすび」は求人情報サイトではないため、マッチングは行っていませんが、各事業所が独自に写真や動画を含めた情報発信を行うことが可能になっています。また、「ふくむすび」では併せて「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」事業所の情報を公開しており、宣言事業所の働きやすい職場づくりに関する取組状況や職場環境の詳細を確認することが可能です。





「ふくむすび」(トップページ)  
<https://www.fukushijinza.metro.tokyo.jp>

東京都では、キティちゃんが「**TOKYO 福祉のお仕事アンバサダー**」として、福祉人材の確保推進のために活躍してくれています♪



\*「ふくむすび」では他にも、福祉の仕事・資格等に関する案内、現場で働く方へのインタビュー、就職相談イベントの案内など、各種コンテンツを用意し、福祉の仕事に興味を持つ方への情報発信を行っています。しかしながらまだサイトの認知度の低さ(令和2年9月時点のWEB上のアンケートにて25.7%)が課題であり、サイト分析を行いながらWEB広告を実施して認知度向上に努めています。なお、よりわかりやすい、使いやすいサイトにするため、今後の再構築も予定しています。

【福祉の仕事・資格等に関する案内】



【福祉にまつわるコラム】



【福祉分野の就職相談イベントの案内例】

